

## 北海道静内農業高等学校の行動計画(グローカル・アグリハイスクール宣言 PartⅡ)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和7年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローカル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	(1) アグリマイスター顕彰制度を推奨し、農業教育の質の向上を図る。  (2) 教科内プロジェクト学習を推進し、プロジェクト学習法の確実な定着とプレゼンテーション能力の向上を図る。	(1) プラチナに3名、ゴールドに3名、シルバーに14名を合格させることができた。  (2) 3年次課題研究にて一人一プロジェクト発表や農業教科内プロジェクト発表を実施できた。	(1) 選奨生徒の増加につながるよう指導方法の改善と充実を図る必要がある。  (2) 次年度も継続するとともに、個別の研究活動が深まるよう指導する必要がある。	5
	2 「世界と日本をつなぐグローカル教育」を行います。	(1) ASIAGAP認証からJGAP認証に移行することで生産工程管理の学習を継続し、グローバルな視点から農業生産を分析する能力を高める。  (2) 海外の学校や生徒との交流を実現し、世界の中での日本や北海道について生徒が考える機会を創出する。	(1) ASIAGAP認証を維持し、JGAP認証への移行を進めている。  (2) 韓国やフランスの農業高校からの訪問団や留学生を受け入れ、グローバルな視点で農業を考える機会を創出できた。	(1) スムーズな移行を進めるため、各関係機関と連携する必要がある。  (2) 英語科との連携充実を図り、生徒が海外派遣に積極的に応募するよう挑戦を促す必要がある。	4
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1) 静農コンソーシアム事業をとおして高度な専門性や実践力を養う学習を推進する。  (2) 環境に優しい持続可能な農業技術について実証的な取組と普及を行う。	(1) 関係諸団体、企業と連携した事業を継続し、実践できた。  (2) リジェネラティブ農業やバイオ炭など、みどりの食料システム戦略に即した学習内容を展開できた。	(1) 指導がより効果的になるよう事前、事後学習を充実させる必要がある。  (2) 持続可能な農業を、地域の農業の現状と照らし合わせて展開する必要がある。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1) 静農コンソーシアム事業をとおして高度な専門性や実践力を養う学習を推進する。  (2) 栽培・飼育・加工・販売・活用の学習をとおして6次産業化に対応した人材を育てる。	(1) 関係諸団体、企業との連携を継続することで高度な専門性を養うことができた。  (2) 農場内での連携によりフードシステムの学習を推進できた。	(1) これまでの関係性と教育内容を精査し、発展につながるよう取り組みを進める必要がある。  (2) 消費者に選ばれる農産物及び加工品の生産を一層強化する必要がある。	4
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1) 本校に隣接する二十間道路桜並木をとおして環境保全について考え、地球環境を守る人材を育てる。  (2) カーボンニュートラルについて生徒が自ら考え取り組む学習をとおして地球環境を守り想像する教育を行う。	(1) 桜並木の清掃ボランティアを継続できた。  (2) カーボンファーミングについて外部への普及活動ができた。	(1) 地域資源の概要について更に広く生徒に学習させる必要がある。  (2) 地域資源を活用したバイオ炭の製造研究を更に推進する必要がある。	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1) 食品学科において学校設定科目「商品開発Ⅰ」「商品開発Ⅱ」をとおして地域の特産品開発に取り組む。  (2) 農業の各科目において基幹産業、観光資源を活用した学習を展開し、地域の活性化に寄与する人材を育成を図る。	(1) 新ひだか町及び新ひだか町の商工水産業者と連携した商品開発を実施できた。  (2) 農業生物を扱う科目で地域との交流を実施することができた。	(1) 新商品を地域事業者が生産できるよう活動を検討する必要がある。  (2) 町や振興局と連携することで地域交流を更に推進する必要がある。	4
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1) I C Tを活用した農業生産物の栽培、飼育に関する学習に取り組み、成果を地域に発信するよう努める。  (2) パソコンやスマートフォンなどのI C Tデバイスやオンラインアンケートフォームを授業に活用するよう努める。	(1) 各種デバイスを使用しICTを活用した研究を行うことができた。  (2) 授業のアンケートや教材の配布などI C Tを活用した授業改善に取り組むことができた。	(1) 栽培、飼育に関するデータの集約と整理の指導方法を改善する必要がある。  (2) 事前、事後学習の充実を図るためのデジタルコンテンツを整備する必要がある。	4
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	胆振東部地震を教訓に防災意識を常に持ち、自助、共助、公助を念頭に連携し、『命を守る』意識を高める。	津波を想定した一日防災学校を新ひだか町防災係と連携して実施することができた。	防災意識を常に持たせるためにも、防災避難訓練の意義や効果的な実施方法を検討し、防災教育をより充実したものにする必要がある。	4